

校訓	真善美	令和6年度 学校だより	発行日	令和6年4月17日
教育目標	自ら考え、行動し、 未来を創造できる生徒の育成 感謝する心、確かな学力、健やかな心身を育てる	「荒中だより」 卯月 第3号	発行者	伊丹市立荒牧中学校 校長 山崎 佳恵

## 【入学式 式辞】

桜の花びらが舞い、大地には色とりどりの花が咲きそろそろこの佳き日に、  
入学式を迎えられた202名の新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

みなさんの入学を、在校生、職員一同、心待ちにしていました。

新入生のみなさんの意気込みあふれる「はつらつとした姿」を拝見し、大変頼もしく感じています。

今の、新鮮な気持ちを大切にしてください。

保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。心からお慶び申し上げます。

また、伊丹市教育委員会事務局 矢田様、逸見様をはじめ、ご来賓の皆様、そして、多くの保護者の皆さまのご臨席を賜り、第45回入学式を挙行できますことはこの上ない喜びでございます。

高いところからではございますが心よりお礼申し上げます。



さて、新入生のみなさん、本校は、44年の歴史と伝統をもち、生徒数618名の活気と可能性にみちあふれる学校です。また、今日の入学式は、開校から44年の伝統である制服が一新する記念すべき貴重な時間です。この時間を、全校生徒と保護者や来賓の皆さま、職員が、5年ぶりに一堂に会して、荒牧中学校の歴史をきぎむ瞬間に立ち会っていただくこととなります。

制服は、学校のシンボルです。新しい制服には、ここにいる先輩方の意見が多く採用されています。特に、ボタンのデザインには、「荒牧といえばバラ。バラのとげは、反抗期や思春期を、つぼみは成長途中の私たちを表しています」という思いが詰まっています。まさに、不易流行です。制服の形が変わっても、伝統を大切にしつつ、時代に応じて新しいものを取り入れていくことが、求められる時代です。

先輩といえば、東京2020オリンピック、パラリンピックの舞台では、卒業生が選手として世界の舞台で活躍する場面がありました。また、日本を代表するマーケター、野球選手、宝塚ジェンヌ等、卒業生の活躍の舞台は多方面にわたります。誇りに思うことは、後輩のためならと講演にお越しいただき、貴重なお話しの中で、どの方も、この荒牧中学校で過ごした3年間で人生の大きな力、礎となっている

と話されていたことです。このような先輩方の活躍は、荒中生ひとりひとりの可能性や夢の実現に向けての希望でもあります。私は、みなさんひとりひとりがもっている良さや可能性をあらゆる場面で引き出せるチャンスをつくりたいと考えています。そして、仲間や先生方とつながり、互いに磨き合い、高め合える関係を大切に、学校生活の中で、自分に自信をつけてほしいのです。

荒牧中学校の学校教育目標は、

**『自ら考え、行動し、未来を創造できる生徒の育成』**です。

この学校教育目標を実現するために、「荒牧中学校の生徒としてあってほしい姿」を3つ話します。

1つ目は、「目標をもつ」ということです。将来の夢というと漠然としている人も多いでしょうが、まずは、来年の3月修了式に日に、どんな自分でありたいかという目標をたて、新しいことにどんどん挑戦してください。

2つ目は、「自分から先にあいさつをする」です。あいさつは、心と心をつなぐ合い言葉です。言葉のキャッチボールは、心のキャッチボールです。自分から先にあいさつをすることをこころがけて、たくさん人の心とつながり、気持ちよく生活できるよう勇気をもってください。

3つ目は、「全力でやりきる」です。勉強、行事、部活動など、全力で悔いのないように取り組んでください。同じやるなら一生懸命。一人でできないことも仲間とともに全力でやりきる事から見える景色があります。それが成長です。以上、「目標をもつ」「自分から先にあいさつをする」「全力でやりきる」3つのことを意識して学校生活を送り、未来を創造できる、たくましい力をつけてください。

最後になりましたが、本日ご臨席いただきました保護者の皆様、ご来賓の皆様、ご多用にも関わらず新入生を祝福して下さり、ありがとうございました。義務教育最後の3年間、教職員一同、熱意と愛情をもって、お子様の成長のために邁進して参りますので、今後とも荒牧中学校を見守り、ご支援いただきますようお願い申し上げます。式辞といたします。

令和6年4月10日

伊丹市立荒牧中学校

校長 山崎 佳恵

